

## 2010年北米選手権レポート

(元原稿は2010.7.1～7.5にブログに掲載した記事)

出発(7/1 6/30)

職場から直接成田へ向かい、出国。成田からの出発がだいぶ遅れる、そのせいでカルガリーの乗り継ぎも1本遅れる、1日目の宿であるユースホテルになかなかたどり着けない、スーパーマーケットが見つけれられない、といろいろ紆余曲折はあったものの、同行の櫻本選手(愛称:モトシン)とともにそんなプチトラブルも含めて楽しくやっている。こちらは夜の10時前だがまだ夕方前の明るさ。しかし今日は長い1日だった。そろそろ眠り、明日の早朝、大会開催地クランブルックへ発つ。



ロッキー山脈



カルガリー

## July 1st(7/1)

カルガリーからクランブルックまでのドライブはなかなか壮大だった。

始めは大平原の中を真南に地平線目指してハイウェイを走る。やがてロッキーの麓にあたる丘陵地を、北海道の美瑛をよりスケールアップしたような光景の中を、駆ける。やがてロッキー山脈の山塊の1つに突中、どうやって登るんだ？というような頂が両側にそびえる谷の中を進む。



ロッキーの山々



直線距離では200km ちょっとだが、実際は400km 弱であった。所要時間は4時間。ハイウェイの制限速度は最高110km まで。みんなそんなの無視して走るのかと思ったが、意外とまじめに守っている。しかし信号も街中にしかないから制限速度 = 巡航速度みたいなものである。



道中

今日はカナダ・デー、建国記念日である。ラジオはしきりに「Happy Birthday Canada」や「Happy Canada Day」を連呼しており祝賀ムードたっぷり。日本の建国記念日では政治団体の人たちが熱く語りこそすれ、お祝いするという感覚はない。というかほとんどの人が2月11日が建国記念日だと気付かないまま過ごしていることを考えれば、国家観の違いを考えさせられる。4日はアメリカの独立記念日である。

本日の目的はエントリーチェックインとモデルイベント。チェックインでは受付係のおばちゃんが親切に対応してくれた。モデルイベントについてはまた記事で報告するとして、どこに行ってもわざわざ日本からやって来た参加者を優しく気づかってくれる。そういう意味でも北米選手権はお得な大会参加だ。

宿にも無事に入れたので今日は夕飯を食べたら寝るだけである。みんな英語で話すので、ラジオや地元のおばちゃんたちの井戸端会議の内容がちょっとはわかるところが欧州遠征とは違う面白みだ。

## モデルイベント(7/1)

モデルイベントに入った感想は「こんないいところあるなんてずるい！」であった。僕の行ったことのある他の国にたとえるならチェコ、日本で例えるなら植生のよい八ヶ岳、と行ったところ。地図の精度も僕には十分なレベル。失礼な話だが、こんなよい環境があっただけ北米勢が日本選手と同じようなレベルに留まっているのだろうかと思えた。もちろ

ん生活環境と競技環境のギャップなどやはり日本と同じような問題もあるからだろうけど。

トレインについて詳しく書こうかとも思ったけど、疲れてきたのと他の仕事もたまっているので写真の紹介だけ。



モデルイベントマップ(1:10,000)



トレイン中央の池から望む。さて、どこから撮ったでしょうか？



とある沢の風景。下のマップのあたり





37 と 38 の間のピークから撮ったクランブルック周辺の風景

## ミドル(7/2)

朝は曇り。午前中は雨が降ったりやんだり。レースが終わって午後になると快晴。そんなクランブルックの天気。

今日の朝はミドル。宿から車で 15 分くらいとところ。会場近くの駐車場には台数制限があり、森の入り口のカープールで 4 人以下の車はいったん降りて、相乗りして行くことになっている。僕らは中年夫婦の車に乗せてもらう。会場では英語でのアナウンサーがいるいとまくし立てている。これだけで国際大会という雰囲気が出てくる。しかし会場にいる人は意外とまばら。500 人も参加者がいるの？というくらいだった。よれよれの T シャツやジャージで出ている人もいるし、O シューズではなくてサッカーシューズの人も多い。このへんは日本の大会会場の雰囲気にも近い。



会場の風景

まずモトシンがスタート。中間でトップタイムを出し、「Shinichiro, new leader!!」と何度もアナウンスされる。おお、すごいぞモトシン、カックイイ。モトシンは後半のループで少しミスをしたが、ゴール時点ではまだトップを保っていたようで何度も名前を呼ばれる。そして僕の名前も呼ばれる。シゲユキコイズミは参加者の中でワールドランキング上位だ、みたいなことを言われていた。モトシンも調子よいし、僕もいいレースができるはず、がんばるぞ！と気合いを入れてスタートした。





もとしんスタート

が、気合いが空回りしてしまったか。序盤の2番コントロールで西隣の台地に入り込んでしまい現在地が確定できない。よもやそんなところに入り込んでいたとも思わなかったのが右往左往。お手上げ状態になってしまい、一番高い山に登ってようやく現在地を間違っていたことに気付く始末。レース時間の1/3をその区間に費やしてしまった。その後も細かくミスをしてしまい最下位争いをしてしまった。情けない。

が、まだこれで終わりではない。気持ちを切り替えて明日のロングは出し切ろう。今回の原因は距離感。進んだ距離が予想以上に長かったのは、地面が硬く、日本のそれとは感覚が違うことによるだろう。



ミドルコース

もとしんは富士でのトレーニングの成果があったと言っている。コンパス直進や歩測がきちんとできた、と。どんなときでも基本に忠実であるべきなのだ。つまり、富士でみんながやってきたトレーニングはきっと結果につながる。

## ロング(7/3)

大会2日目はロングディスタンス競技。今の僕のメイン種目なだけによい結果を得たかったが、残念ながら今日もよい結果とは言えなかった。トップが87分のところ109分。今日もつまらないミスを1つしてしまったが、それらを差し引いても90分後半くらいが限界に感じた。トップはノルウェーの選手だが、北米勢も何人かは90分前後で走っている。北米選手権なら上位を狙えるなんて大口を叩いたことをまず北米の選手に謝らなければならない。調子はよくないと言わざるを得ないが、今は何を言っても言い訳にしかならない。明日のスプリントまで精一杯やるだけだ。しかし今日はとてもタフなレースで、途中で頭が飛びそうになったが、最後まで気持ちを切らさず走れたことは忘れたくない。



ロングコース

## スプリント(7/4)

あっという間に最終日。スプリントはクランブルックにある小さな大学とその周辺の森の中で開催された。

いわゆる山スプリントだが、過去2日間と比べると岩がちな地面も少なく、日本の森林公園のような走りやすい場所であった。そんなこともあり、さすがに大きなミスはなく、集中と

気合いを保ってレース終了。スプリント向けのトレーニングをしてきていないので、とてもよい結果は望んでいなかったが、日本の大会でも入賞は手堅いだろうという出来であった。ゴール時点では2位だと言われ、まわりの人々から「おめでとう」と言われるが、内心では(これで3位以内はないだろう)と思っていた。果たしてその通りで、最終的には6位になった。カナダのスプリンター、**パトリック**がぶっちぎりの優勝。連日良いパフォーマンスを出している。彼は今年もWOCで予選を通過するだろう。

最後に表彰式を眺める。表彰式の風景も日本的で、マイクで呼び出され表彰式でメダルをもらって写真撮影、「じゃ、次のクラス」って感じで進んでいく。なんだか親近感が沸いた。M80クラスまで実施されていた。アメリカvsカナダの対抗戦は何年かぶりにアメリカが勝利したらしい。最後にジムという大会責任者をみんなで祝福。みんな楽しそうにやっている。

初めは「こんな環境があるなんてずるい」なんて思っていたが、それぞれの国にそれぞれの事情がある。大会期間中にいろんな人が話しかけてくれたが、北米と一言で言っても大変広い。カリフォルニアからきたオジさんは「普段はこんなトレインで走れないから僕にとっても難しいよ」と言っていたし、ワシントン州から来たという若者は「探せばもっと良いところもあるんだけど調査が難しい」と言っていた。北米というオリエンテーリング未開の地にありながら、こんなマニアックなスポーツを楽しみしている人たちがいる。その人口密度は日本のそれよりも小さいかもしれない。そんな環境のなかで、この大会のためにジムたちががんばって地図を用意して、コースを用意してくれたのだ。この大会に来れたこと、この大会が開催されたことにまずは感謝をしなくてはいけない。



スプリントコース



## July 4th(7/4)

長いロングドライブを経て、カルガリーまで戻ってきた。

今回の遠征の2つの目的のうち、高いレベルで競ってくるということは残念ながら果たせなかった。しかし、決して北米の選手と日本選手の差が開いているわけではないことは付け加えておきたい。ロングのスプリットタイムを見ても、大きなミスをするまではトップと3分以内で入賞争いを演じていた。スプリントもスプリントに合わせトレーニングしてきた選手が走ればもっと上位を争っただろう。今回は僕自身に問題があったからである。そのことは8月の世界選手権で代表選手が示してくれるであろうし、僕自身も来年までにリベンジを果たしたい。

もう1つの目的であるリーズナブルな海外遠征という意味では大成功だった。よもやここまでレベルの高いコースを走れるとは思わなかった。500mを優に超えるコンパス直進が必要であるし、かと思えば岩ばかりの細かな地図表記の中を正確にナビゲーションしなくてはいけない。僕は10月にフランスにもトレーニングキャンプのために遠征をする予定だ。アルプスの麓に位置するキャンプ地はやはり今回のような特徴があると予想している。その前に課題を浮き彫りにすることができたのは大きな収穫。図に乗らず、地道にトレーニングをしなくてはならない。

ということで短いカナダでの生活は今晚で終わり。最後の晩はちょっとは豪華に食事をするのがいつものパターンだが、今はまだ何も成し遂げていない身分。だったら最後までリーズナブルにいこう、ということでアメリカ(大陸)初のマックでハンバーガーにしようかと思っている。